

建設経済常任委員会視察研修報告書

氏名 岩澤 信

○視察先及び目的

- ・宮崎県日南市（油津商店街活性化の取り組みについて）
- ・鹿児島県志布志市（新規就農支援（研修事業）の取り組みについて）

○視察日

平成31年1月23日～平成31年1月24日

○視察報告

1月23日（水）宮崎県日南市の油津商店街活性化の取り組みについて行政視察を行いました。

昭和40年代、かつて宮崎県南地区最大の商店街が小売店、歩行者の減少により空き店舗空き地の増加で商店街として厳しい状況が続いていました。その状況下、33名の公募の中から選ばれた木藤亮太氏をテナントミックスサポートマネージャーに招き、**4カ年で20店舗誘致を目標達成指標**として様々な取り組みを行ってきました。

（1年目）

現状把握と信頼関係づくりとして、応援団キトチケットの結成・商店街とのコミュニケーション作り・的を絞り、迅速に動き、事業を仕掛けていくまちづくりの会社「株式会社油津応援団」の設立を行い、また毎週朝ミーティング・毎月全体ミーティング・適宜コミュニケーションを始めました。1年目平成25年度の店舗誘致は

0件、市民の声として「20店舗なんて無理！」が現状でした。

(2年目)

地元の方の思い出の場所でもある喫茶店をリニューアル平成26年4月商店街1店舗目として「ABURATSU COFFEE」オープン、豆腐を使ったランチを提供する「二代目湯浅豆腐店」オープン、若者が関わる14の団体、企業が参加しみんなでつくる「土曜夜市」の復活、また大学や高校との連携を図り、2年目平成26年度の店舗誘致は2件、市民の声は「20店舗はやっぱり無理！」でした。

(3年目)

店舗誘致を推し進め、修理屋さんのいるまち油津商店街として「油津なおしえるじえ」、スーパーマーケット跡を改修した交流スペースとして多世代交流モール「油津Yottēn」が新しい来街目的が生まれました。また、熱い思いを持つ若者により「株式会社油津応援団」「ABURATSU COFFEE」の成長が商店街の活気・店の魅力につながっていきました。さらに情報サービス関連企業の誘致として、日南マーケティング専門官、田鹿倫基氏の日南市のマーケティング戦略「日南市のイメージ戦略の実行」「日南市と企業のコラボを通じてWin-Winの関係を築く」「企業とよい関係を仕組化する」を構築し、日本一取り組みやすい自治体への挑戦や、クラウドファンディングの活用、市民の眠る労働力を掘り起こし、収入を向上させることで地元に住み続けられるまちづくりとしてクラウドワークスとのテレワーカー育成プロジェクト、流行りのIT企業の誘致ではなく、若年層の吸収力が高い事務職を誘致することにより、若者がチャレンジするまち取り組みやすい自治体として、3年目平成27年度の店舗誘致は15件、IT企業3社、市民の声は「20店舗誘致できるのでは？」に変化しました。

(4年目)

商店街で新たなチャレンジとしてゲストハウスの誘致、子育て支援センター「ことこと」・保育施設「油津オアシスこども園」オープン、持続していくしくみや体制を整えることにより歩行者通行量が事業開始時より2.5～3倍になり、結果4年目平成28年度の店舗誘致は29社IT企業10社と目標を大きく上回り市民の声は「日南でもできるんだ！」になり目標を達成しました。

その他の取り組みとして、油津港クルーズ船の活用・広島東洋カープキャンプ地として「駅舎を日本一のカープ駅に!」「キャンプ地としての魅力発掘」・アーケードをカラフルな傘で彩りたい「女子高生の挑戦」など若者を応援する大人がいる、チャレンジの連鎖となりました。

まとめとして、油津商店街はかつての賑わいある商店街から、「新たな機能を中心に多様なコミュニティが生まれた」これからの商店街として進化し、持続可能なまちづくりの一環として推し進めていました。



1月24日（木）鹿児島県志布志市の新規就農支援の取り組みについて行政視察を行いました。

志布志市の概要として、人口31,633人・農家戸数2,133戸・総面積29,028ha・耕地面積6,660ha・水田1,530ha・畑地5,130ha（畑かん4,008ha）主な農産物は、ピーマン・いちご・茶・さつまいも・肉用牛、豚（人口平成30年8月31日現在・農家戸数平成27年2月）となります。

地域農業を取り巻く環境として、高齢化兼業化の進行による担い手不足・荒廃農地の増加・農業構造の弱体化があげられ、農業公社設立により地域農業振興・農村活性化及び農業者の経済的社会的地位の向上を図り、地域社会を発展させるため、平成19年4月1日（財）志布志市農業公社設立平成24年4月1日公益財団法人志布志市農業公社に名称変更いたしました。

主要事業として、農作業の受託および委託に関する事業・農業の後継者育成に関する事業・農地利用集積円滑化に関する事業をおこなっています。

平成29年冬春ピーマンの生産状況（10月～5月出荷分）として、鹿児島県は全国3位、志布志市は鹿児島県内2位と、冬春ピーマン栽培に適しています。

研修品目「施設ピーマン」の研修内容・受入条件として、研修期間2年・公社研修ハウスで実地栽培・条件として、**農業に対する固い意志と意欲のある農業後継者や新規就農希望者**で、志布志市内に移住就農できる者としています。年齢は概ね45歳未満、自己資金として500万円以上の残高証明書の確認や、研修手当として1年目：夫婦25万／月、単身15万／月、2年目：独立経営方式のため支給はありません。

2年間の実践研修として、農業の基礎知識の習得支援・栽培管理技術の習得支援・

就農計画、資金利用計画作成支援などを行っています。

研修生の出身地として県外67%県内33%ですが、近年では地元出身者が増加、また修了生の定着状況は70%となっています。

研修生が志布志市を選んだ理由として、田舎過ぎない・総合病院、大型スーパー、進学校がある・受入体制の出口が見えるなどがあげられ、新規就農者が地域に及ぼした影響として、耕作放棄地の未然防止・過疎化、小学校の複式化の緩和・地域の園児や児童に対する「食農体験」があります。

今後は、研修ハウス・就農ハウスの老朽化・就農用地の確保・新たな作物による研修生制度が課題となっています。

まとめとして、研修ハウスを現地視察させていただき、新鮮なピーマンをいただきながら研修生との会話の中で、農業に対する熱い思いと覚悟をもった取り組みがこれからの農業就農者につながっていくと感じさせていただきました。



以上のとおり報告いたします。

平成31年 2月 21日

取手市議会議長
入江 洋 一 殿